

## 62 ボス 『パリの呼び売り』

**Bosse, Abraham. Les cris de Paris.** vers 1640. 12 plates (copper. mono.) 35.0×26.1cm  
 <383.135-B>

Hiler p. 104 Colas 396

我が国に『江戸の物売り』、『江戸商売図絵』あるいは『江戸庶民の商売』といった著作がみられるように、ヨーロッパにも (Les) cris de Paris あるいは (The) cries of London といった表題の絵・図集・著作が伝統的に存在している。それらの中でも、本書は初期の代表的著作として名高く、これに続く時代のものとしては、例えばボナール(J. B. Bonnard)Cris de Paris, vers 1700, プーシェ (François Boucher) Les cris de Paris, vers 1735, ポワッソン (J. B. M. Poisson)Cris de Paris, 1769—1775, ヴェルネ (Carle Vernet)Cris de Paris, vers 1820<383.135-B> などがある。

アブラーム・ボス (Abrahm Bosse 1602—1676) は、有名な17世紀フランスの画家ジャック・カロ (Jacque Callot 1592—1635) に続く画家として知られている。とりわけ、各々1500点前後に及ぶ銅版画は、17世紀のフランスやイタリアの貴重な生活資料となっているが、両者間の作風は全く対立的である。というのも、カロの作風の特徴は、その鋭い空想力を土台にした、人間の姿態に軽快と動感を与える抜群の技術に見られる。これとは反対に、ボスの特徴は極めて緻密で静的な描写にあるからである。

ボスはフランス、トゥールの仕立屋の子として生まれた。彼の家はもともと信心深いカルヴァン派で、30歳まで時計師としての修業を積んだ。のち、パリに出て銅版画、とりわけエッチングに専念し、やがて遠近画法を駆使した数々の作品を生むが、本書はそれらの中でも初期に属しており、12枚が取められている。順に記せば「水運び」、「人足」、「猫いらず売り」、「笛と長太鼓を奏する物乞い」、「巻きウェファース売り」、「鍋や金物磨き」、「酢売り」、「煙突掃除」、「小さな肉パイ売り」、「盲人と犬」、「カキ貝売り」、「生水売り」である。

この約5年後に、ボスは有名な『彫版技法研究』Traité des manières de graver en taille-douce <735-B> を著した。(石山)